

調布・生活者ネットワーク

No.111 2016.1.25

〒182-0022
東京都調布市国領町 8-1-13
TEL : 042-487-3087
FAX : 042-487-3090



調布市議会議員 **二宮ようこ**

◆ 調布・生活者ネットワークHP
◆ 調布市議会議員二宮ようこHP

<http://chofu.seikatsusha.net/>
<http://ninomiya.seikatsusha.me/>

調布ネット満25年 その原点を聴く 地方分権と市民参加を進めて…

調布ネットが設立総会を開いた1990年12月から丸25年。四半世紀を経て、改めて調布ネットの原点を振り返ろうと、設立メンバーの一人江刺益子さんに二宮ようこ議員とドウマンジュ恭子前議員が話を聴きました。

水道から地下水 環境へと活動を広げて

二宮 そもそも自分たちで市議会議員を出そうと思ったのはどうしてだったのでしょうか？江刺さんの体験をお聞かせください。

江刺 最初に議員を出すことがあったわけではありません。私は地方から調布に引っ越してきて、水道の水が気に入ってしまっただけです。調布は地下水を汲んで水道水にしていたからおいしかったのです。

ところが、ある時東京都の水道局の人から「東京都は地下水をやめて河川水だけで水道事業をやろうとしている。調布市もそれに乗って東京都と水道を統合する予定。一緒に地下水を守る運動をやってほしい」と声をかけられたのです。

市民の誰もが飲む大切な水なのに市民に一言もなく市が勝手にそんなことを決めていいのかと思いました。生協の役員もやっていたので、生協にも声をかけ、他の生協とも一緒に運動を始めました。



△ 江刺益子さん

二宮 どんな運動ですか？

江刺 複数の自治体で、市民が井戸のある家を一軒一軒訪ねてお話を聞く「みずみち調査」を行い、地上からは見えない地下水脈を探りました。他にも、地下水について学びあうシンポジウムや駅前広場での署名活動を行いました。最終的には1万筆ぐらいになりました。

その署名を持って、市議会に陳情を出しました。結果は、趣旨採択。趣旨は認められたと思えました。2000年に東京都の水道事業と一元化した時に「できるだけ地下水を使うようにする」という文書を東京都と交わしたのは調布市だけです。

でも、「環境が一番大事」と思っている市議会議員はいないとは思っていました。それで、環境を大切にしている生協の人たちに呼びかけて議員を出す準備を始めたのです。

ネットの議員は市民とともに

二宮 江刺さん自身が議員にはならなかったんですね。
江刺 ネットは議員だけが頑張る組織ではないのよ。議員と



一緒に活動する市民が大事なの。それがなければ他の議員と一緒に活動は、市民と一緒に調査し、議論して政策を作り上げるもので、特に、調査した結果は動かさないからとても重要です。畑調査や防災のための堀や井戸の調査、バリアフリーチェックなど、市民自身が数多くの調査を行ってきました。

ドウマンジュ 行政に対してのネットのスタンスも、調査や実践などの市民活動をベースにしていますね。
江刺 今、地域の市民ボランティアが行う里山保全活動については、その方針を雑木林連絡会という市民団体と行政が話し合っています。



ドウマンジュ

まさにそのことを、私は議会で質問を重ねてきました。どういう緑を守りたいのか市民と行政が話して目標を立て、何を実行していくのか一緒に考えていきたいと思います。これが実現しつつあります。

江刺 市民の行動とネットの議会質問が両輪となって、市民によるまちづくりが実現していくのだということですね。何でもネットがやる必要はなく、そういう市民の動きをコーディネートしていく、まちづくりの絵を描いていくという役

割だと思う。
また、市民が描いた絵を行政につないでいく役割もあります。

環境だけでなく、福祉や教育や平和のことなど、どんな課題であっても基本はそこにあると思っています。

ドウマンジュ 市民から言われたことを、「議員の私が何とかします」というのではなく、市民自身が動くということを大切にしています。そのためには、意見を交わし、わかりやすい情報提供をしながら、まち全体を視野に活動するよう心掛けてきました。

江刺 調布市は、今年度策定予定の環境基本計画の案を市民に説明して意見をもらうことになるなど、行政の中でも程度の差はあれ、市民参加が当然になっけていて感じます。
二宮 調布市基本構想にも「市民参加のまちづくり」が入っているし、これは成果ですね。

江刺 今、安倍政権は民主主義とか市民自治を壊しにかかっています。でも、自治体も市民とともに力をつけようと、20年、30年かけて地方分権と市民自治を進めてきました。この動きをそう簡単に崩すことはできないと思いますよ。

二宮 地域の中で地道に進めてきた市民参加を大切に、私も子どもの未来と育ちを全力で応援していきたいと思っています。



一般質問

人権の視点を活かした社会の実現に向けて 意識啓発や災害支援にセンターの活用を

男女共同参画社会とは、性別に関わらず一人ひとりが自分らしく生きるこ
とのできる社会です。

市の財産である男女共同参画推進センター(以下センター)を市民がより活
用しやすくなるよう質問しました。

センターの積極的な周知を

男女共同参画社会への意識を
高めるためにセンターの果たす
役割は大きい。市民に向けた周知
を。

答弁 来館者にわかりやすくな
るように、入口ドア等にセンタ
ー名を表示することを協議する。広
報誌「しえいくはんず」の掲載や
図書コーナーのPR展示等を通
して、市民課窓口や貸館の利用者
にも、施設の役割や事業を周知し
ていく。

センターとの連携で 学校教育での取り組みを

市内の中学校での出前講座で、
命の誕生、自己肯定感を育む性教
育が行われた。知らないことが結
果として自身の体を傷つけてし
まうなど、今の子どもたちの現状
から見ても必要な教育。男女とも
に自分や相手を大切にすること
意識をもつことが大切。学校教育
の場で、発達段階に合わせて積極
的に教えるべき。

答弁 センターは毎年中学生対
象に出前講座を実施している。他
に、多様な家族について考えさせ
る映画の上映、思春期の生徒向け
には、産婦人科医を講師として派

遣し、「こころ、からだ、かんけ
い」と題してデートDVや望まな
い妊娠などについて学習する講
座、低学年用に「みんな違ってい
い」を用意。また、毎年中学生の
職場体験を受け入れている。

LGBTの子どもへの 早期支援を

社会の理解が進まない中、40
人クラスのおよそ2人がLGBT
Tであるともいわれている。家族
や友達にもありのままの自分を
伝えられず、暴力、いじめ、差別
などの不当な扱いを受けても相
談する場もないなど、当事者の苦
痛は深刻。多様な生き方について
の学習や、支援につなげる取り組
みと相談できる場所が必要。

答弁 教職員に対し学校訪問等
の機会に指導。相談窓口を設置し
て環境整備に努める。今後、児童
館や青少年ステーションCAP
Sでは、性的少数者である子ども
や若者への理解を深め、職員への
意識啓発とともに、LGBTに関
する研修なども行っていく。

行政事務や、公文書の見直し
と、LGBTに関する研修など、
社会全体が身なりや性別に関わ
らず、一人の人間として個性を生
かし、相互に人格が尊重されるよ



う積極的な啓発が必要。条例など
の整備については、都や国全体の
動向を注視していく。

避難所運営は 男女共同参画の視点で

被災地での避難所で、女性の声
が届かず、性被害も多数報告され
ている。女性にとっても安全・安
心な避難所運営が行われている
か、災害時にセンター職員が見回
つてチェックとアドバイスを行
うことを求める。また、同様の視
点を持って避難所運営の支援が
できるボランティアの養成・派遣
などの取り組みを進めるべき。

平常時から共通の認識を持つ
ことは、いざという時も意識啓発
にも役立つ。地区協議会などでも
活用出来る事例集や、避難所運営
の際の配慮事項を掲載するリー
フレットの作成を。

答弁 男女共同参画の視点を持
ったボランティア研修を、市民活
動支援センターと協働して実施
する。災害時にセンターが果たす
べき役割や女性視点の避難所運
営に関するリーフレットの作成
について協議中。3月には女性の
ための防災講演会を市民プラザ
にて実施する予定で、地区協議会
等を通じてPRしていく。

人・まち・風 まちなかの 子育て支援の場

布田3丁目にある「ぶく
ぶくポレポレの家」は、子
育て中の親子が、ゆったり
と時を過ごせる場です。代
表の鈴木さんは市内で保
育士をされていた経験か
ら、不安で孤立しがちな子
育てにはサポートが必要、
大事な子どもをみんな
で育てましようというメッ
セージを届けたという
思いで、2013年に開設
しました。

その思いに共感した大
家さんが民家の一階を無
償で提供し、地域に開かれ
た場として、ひとり暮らし
のご高齢の方の居場所
にもなっています。みんな
と昼食も一緒に食べられる、
こんな交流・支援の場が市
内のあちこちに増えると
心強いですね。(KD)



ぶくぶくポレポレの家

月曜日～金曜日

10時～15時

利用料 1日五百円

月三千円で何回でも

木曜日の昼食は

登録・予約制

大河原まさこさんを再び国会へ

東京・生活者ネットワークは、今夏の参議院選挙「比例代表区」において、大河原
まさこさんの推薦を決定！

原発ゼロ、エネルギー・食糧の地産地消、社会保障の充実など「一人ひとりの人権
が尊重されている」と実感できる政治を実現するために、調布・生活者ネットワ
ークも大河原まさこさんの活動を応援します。

おおかわら・まさこプロフィール●1953年生まれ。国際基督教大学卒業。生活クラ
ブ生協に加入、食品安全条例制定直接請求運動などに関わる。1993～2005年東京・
生活者ネットワーク都議会議員。2007～2013年参議院議員。厚生労働委員、農林水
産委員など。自治体議員立憲ネットワーク顧問。世田谷区在住。



おしゃべりカフェ No.5 「なんでも話そう」 子ども、医療・介護、食、環境、労働...

日時 4月2日(土) 10:30～12:00
場所 市民プラザあくろす3階 研修室3
司会 二宮ようこ
ゲスト 大河原まさこさん
(リベラル市民政治研究所代表)

疑問・質問など、ネットまでお寄せください。
宛先 ファックス 042-487-3090
主催 調布・生活者ネットワーク